

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101440		
法人名	東洋ウェルフェア株式会社		
事業所名	グループホーム燦 ふくおか(Aユニット)		
所在地	愛知県岡崎市福岡町字通長36-1		
自己評価作成日	平成27年 8月 8日	評価結果市町村受理日	平成27年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2372101440-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様をよく理解し、ご希望に添ったケアの提供を、様々な分野において、ご家族と共に考えながら取り組んでいきたいと思っております。入居者様の重度化は進んでおりますが、外出行事の機会は減らさずに、入居者様の状況に合った外出先を選ぶことによって、無理せず楽しく過ごしていただけるようにしていきたいと思っております。入居者様・ご家族様から、「このホームに入居してよかった」と心から思っていたいただけるような生活を送っていただきたいと思っております。また、今後は地域との関わりをこれまで以上に深めていきたいと考えています。運営推進会議を充実させ、地域の行事には洩れなく参加させていただき、地域の方々との信頼関係作りを注いでいきたいと思っております。それにより、ホームとして地域の方々にも認識を深めていただき、地域貢献ができればと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議には、地域包括支援センター職員・地区総代・組長・町福祉委員長・老人会・介護相談員・家族・利用者・知見者等、多彩な顔ぶれが揃う。ホームの報告に留まらず、活発な意見の出る有意義な会議運営が成されている。
運営推進会議を通して閲覧板で双方向の情報を発信し合っている。草取り・神社の清掃・防災訓練等の情報を得て、地域の方々と一緒に参加している。
このように地域の方々の協力によって地域へ溶け込む事が出来て来たので、今後は地域への恩返し気持ちで『地域貢献』に向けて取り組んで行く考えである。28年1～2月には、地域の65歳以上のサークル活動にもホームを紹介し、地域との結びつきをより一層強固にしようとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員が理念に基づき、支援を行っている。各フロア・事務所に理念を掲示し、常にスタッフが意識できるようにしている。	理念はホーム内の目立つ所に掲示してある。パンフレットの表紙に一際大きな文字で『心の絆で思いやり、共に暮らす穏やかな日々』と記し、家族はじめパンフレットを手にする者にもホームの理念を周知している。	理念の周知は職員・家族共に行き渡っている。次のステップとして、理念を展開した年度目標(又は月次目標)を定め、達成に向けて取り組む事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(清掃・防災訓練等)に毎回参加している。また、運動会、敬老会等には、入居者様も参加させていただいている。	町内会に加入し、地域行事(清掃・防災訓練等)に積極的に参加している。小学校の運動会には席を設けての招待があり、生徒や教師の職場体験の受け入れや高齢者サークル等との交流も日常的になっている。	認知症ケアや関わり方等を、地域に啓発する機会を設けたり、相談を実施する等して、地域に向けた情報発信を行い、認知症の地域拠点とした役割を担って行く事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域組長・総代・民生委員・福祉委員・敬老会の方々にご参加いただき、情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の現状、サービスの提供状況、取り組み等について毎回報告し、参加された方々のご意見を伺っている。	地域包括・総代・組長・町福祉委員長・老人会・介護相談員・家族・利用者・知見者・ホーム職員が参加し、推進会議を年間6回開いている。目標達成計画の進捗状況・業者による講習会等、会議に工夫がある。	町内の多彩の方々が出席されているので、報告・情報交換に留まらず、具体的なホームの課題を話し合い、多くの意見の出る継続性のある会議運営を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、岡崎市介護相談員、地域包括支援センターの方々にも出席いただき、現状報告、情報交換を積極的に行っている。	運営推進会議への地域包括・介護相談員の参加、介護相談員の受け入れ等により、ホームの状況を行政は理解している。介護サービス事業者部会に参加し、医療・保険・福祉サービスと綿密な連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、入居者様の権利を尊重した対応を行っている。各居室の扉には、センサーが設置されており、夜間はそれにより転倒予防の1つの対策としている。さらに、転倒のリスクが高い入居者様には、離床センサーを設置している。	管理者・職員は身体拘束の弊害を十分に理解し、玄関を日中は開錠している。利用者一人ひとりの外出の癖や傾向を把握して見守りを徹底し、安全確保の為にペット柵を使用する時は家族と話し合い、同意書を交わして実施し、経過報告をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内合同で、「虐待、身体拘束、権利擁護」の研修を行い、出席できなかったスタッフ向けに、事業所内でその内容の研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様が3名おられ、制度の必要性を実感している。他の入居者様においても、必要があれば制度利用の支援をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、特に金銭に関わる項目・解約に関わる項目・サービス内容に関わる項目について、長く時間を取り、説明を行っている。また、分かりにくいと思われる部分については、ご入居後もその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご意見を伺っている。玄関に意見箱を設置している。1年に1度、ご家族アンケート(無記名)を行っている。県・市町村の相談窓口を玄関に掲示している。	運営推進会議・ケアプランの更新・家族会・日頃の来訪時や電話での聴き取り等により、家族の意見・要望を聞く機会が多くある。家族会での、『どんな食事を摂っているか?』に答えるべく、試食の機会を作った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、スタッフミーティング等の会議や個別面接にてスタッフの意見・提案を聞くようにしている。また、意見・提案がしやすい雰囲気をつくるようにしている。	管理者は人間関係に気配りし、何かあれば自から話す機会を作っている。個人面談を年2回行い、職員が辛い思いをせず、頑張っている職員が報われるようにしている。業務改善は職員の意見に基づいている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の能力・実績等の状況を把握し、事業所全体としてのバランスを考慮しながら、個々がモチベーションを高く持って働くことができるよう、職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所単位ではなく、社内全体で研修を行っている。その内容を各事業所の各スタッフ1人1人に行き渡るようシステムができています。また各管理者は、毎年2名ずつ、管理者研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム小部会、県のグループホーム協議会に入会し、情報交換・勉強会を行い、サービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の面接時に、可能な限り多くの情報をいただき、ご本人の不安・ご要望をできるだけ明確にイメージできるようにしている。常に、謙虚に笑顔で接し、安心してお話いただける雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、安心してお話いただける雰囲気作りに努め、ご家族の視点から見たご本人の現状をより深く理解できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居説明時に、訪問マッサージ、訪問歯科、訪問理容等ホームで利用できる外部サービスについて説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の業務においても、入居者様の立場に立って、考え行動し、受容と共感の姿勢を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様に変化があった場合は、ご家族に電話もしくは面会時の状況報告・相談をしている。それにより、ご家族とホームが同じ方向を向いてケアができるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームは常に開放し、ご家族の了承があれば、外出・外泊も自由に行えるようにしている。また、来設いただいた方々を、温かい雰囲気でお迎えすることで、また来たいと思っただけよう努めている。	元入居者の家族が季節の果物を持って訪れ、来れない時は宅急便で届けている。馴染みの場所へは家族の協力で支援している。化粧や装飾品の着用等の習慣・絵を描く趣味等を継続している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様1人1人の個性を把握し、食事時の座席の配置、リビングでの座席の配置等を考慮し決定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の方々についても、必要に応じて支援を行っている。例:入院されている方のお見舞い、写真提供、葬儀の参列、送迎車の提供など		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時の情報や日々接する中で、各担当者を中心として、ご本人の思いを把握し、1月に1回のカンファレンスで話し合いを行っている。	元気な頃の言葉から『寿司が食べたい』との思いを推測し、職員が車を出して、家族と車椅子で寿司を食べに行った。字を書きたい意向から、毎日のメニューを書き記している利用者もいる。	苦勞して『思い』を把握して叶えている事例が多くある。この『思い』を職員間で共有し、カンファレンスを通じて介護計画に連動させる工夫を望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の面接とご入居時にご家族に情報シートを記入していただくことで情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェック、食事量・水分摂取量・排泄状況等を始めとして、入居者様の心身における現状把握は常に行っている。また、4ヶ月に1回「できることシート」に記入し、有する能力の確認を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に1度介護計画の見直しを行っている。ご本人、ご家族、管理者、計画作成担当者、担当スタッフ、主任、看護師の意見を踏まえて、ご本人・ご家族にとって、満足のできる介護計画になるように努めている。	半年に一度と、状態変化時に介護計画の見直しを行っている。毎月行われるカンファレンスで話し合い、職員意見を集約し、看護師や家族の意見も反映した満足の出来る介護計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・介護日誌に日々記録をし、職員間で情報共有を行っている。その中で、特に必要な事柄については、個別のカードに記載し、必要時、すぐに確認ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の退院日時、ご家族同行の受診日時等は、ご家族の都合に合わせて決定している。また、誕生日の個別のプレゼントとして、ご本人・ご家族・担当者で外食をする等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会・敬老会等に、参加させていただいている。また、行事で地域の喫茶店に行く等の支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科受診1回/2週、心療内科往診1回/2週、歯科は随時受診で対応している。必要時は、ご家族にも診察時同席いただき、Dr. に詳しい説明をしていただいております、高い評価を得ている。	利用者全員がホーム提携医をかかりつけ医としている。ホーム提携の内科受診、心療内科の往診で医療支援を行っている。受診は原則家族対応となっているが、車椅子利用が多く車の関係で職員対応が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、当ホームは1人ではあるが、必要事項は、口頭で出勤している介護スタッフに伝達し、なおかつ業務日誌・介護記録に記載し、全スタッフに情報が伝わるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院された場合、2～3日に1度、面会に伺い、病院看護師より現状を聞いている。ご家族とも定期的に連絡を取り、Dr. からの情報を早めに得るようにしている。退院の目途が近づいたら、医療相談員と相談するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合のホームでの対応指針について書面を用いて説明している。また、希望があれば、特別養護老人ホームへの申し込みを支援している。	入居時にホームで出来る限界を説明し、理解を得ている。状況に応じ、利用者・家族・主治医・管理者で話し合い、移行先も含め最適な支援方法を決めている。家族の意見としては、『出来る範囲で結構なので、最後まで見て欲しい』との意見が強い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフミーティングにて、研修を行っている。また、社内合同の研修会にて、新しい情報があれば、随時、スタッフミーティングにて情報を周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。地域福祉委員の方々に、災害時の地域の方々に協力を得られるようお願いをしている。	運営推進会議のメンバーの総代・民生委員の参加を得て、年2回避難訓練(昼間・夜間想定)を行っている。訓練前に近隣の方々に案内のチラシを配るも参加には至っていない。	運営推進会議で『災害時の地域の協力』が話題になるも協力体制構築に至っていない。『地域の協力体制』を、運営推進会議の継続テーマとして取り組まれる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「馴染みの関係」「家族的な雰囲気」の名の下に、人生の大先輩であり、お客様である入居者様の自尊心が、日々の生活の中で傷つけられることのないように、配慮しながら対応している。	日頃から人生の先輩である事、人格を尊重する事を周知し、さりげない介護を実践している。職員ヒアリングで『なるべく利用者が家族だと思って暮らせるように接して行きたい』との話を聞く事が出来た。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	折に触れて、ご本人の希望や困り事がないか個別に伺っている。また、日々の生活の中で、入居者様ご本人に選択していただく機会をできる限り多く提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望に合わせた生活をできる限り送っていただくようにしている。強制はしないことを原則としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から、衣類等の選択を楽しめるように支援している。化粧品を使われている方については、残りが少なくなってきたら早めにご家族にお知らせしている。また、月に1回の出張理容を利用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、スタッフと一緒に召し上がっていただいている。数名の入居者様に、食器を拭くお手伝いをしていただいている。	重度化に伴い、普通食、おかゆ、極刻み食、ミキサー食、濾している食等、個々の状態に合わせてきめ細かく工夫している。利用者と共に食事を摂る職員、さりげなく介助をする職員と賑やかな食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医と相談しながら、入居者様1人1人の1日あたりの食事摂取量・水分量、食事形態を決定している。摂取量を記録し、栄養状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入れ歯を使用している方は、外して磨いていただくよう支援している。自歯の方は、磨き残しのないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを理解し、できる限りトイレで排泄をしていただくよう支援している。	排泄チェック表を活用して利用者個々の排泄パターンを把握し、声掛け誘導でトイレで排泄出来る様に支援している。夜間もセンサーで利用者の行動を察知し、適切な支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に摂っていただくようにしている。15:00のおやつでは、原則冷たい牛乳を召し上がっていただいている。食事では、繊維の多いものを摂っていただくようにしている。日々、ラジオ体操・腸の活性化を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	重度化に伴い、2～3日に一度の入浴となっている。入浴時間は限定されるが、その中で入居者様のご希望にできるだけ添えるように努めている。	基本的に週2～3回の入浴としている。体調が悪くて入浴できず、清拭になる事もある。重度化に伴い、シャワー浴・清拭で対応する利用者も増えて来ている。ゆず湯等を行い、季節のお風呂を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	原則、自由に居室で休んでいただくようにしている。また、夜間の睡眠時間を十分に確保できるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に、お薬手帳と薬情があり、常に確認ができる。処方時、薬局にて1包にまとめてもらい、氏名と飲む時間を薬包に印字してもらっている。服薬時はスタッフ2名で確認し、確実に服用いただけるようにしている。症状の変化を常に観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、できる限り、家事のお手伝いをしていただいている。また、ボランティアの方に来て頂き、楽しい時間を過ごしていただけるように支援している。外出支援の機会を少なくとも年5回設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春・秋の外出行事は、できる限り個別の希望に合わせて外出先を決めている。	大型バスを貸し切った日帰り旅行について、朝出て、夕方帰って来るのは皆しんどくなって来たので、今年度は無理なく蒲郡のオレンジパーク(ぶどう狩り)に出掛けた。個別の希望に沿った秋の外出を企画しており、4～5チームに分けて行う考えである。	家族アンケートで最も厳しい評価を受けた項目である。家族の望む外出支援と家族の現状認識にズレを感じる。利用者の外出状況をより理解しやすく伝える工夫を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族が希望された場合は、ご本人に現金を所持いただいている。外出時のちょっとしたお買い物に使っておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から、ご家族に電話をかけたいというご希望があった場合は、ホームの電話機で電話をかけていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節の花、雛人形、かぶと飾り、七夕飾り等季節を感じられるのものを飾っている。	木造りで吹き抜けのリビングは、明るく暖かみを感じさせる。二つのユニットが一間続きで、広々とした明るい空間が作られている。掃除の行き届いた清潔感漂うリビングには、利用者の作品や季節の物が飾られており、リラックス出来る雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置をランダムにしており、またフロアの端や廊下にもイスが置いてあり、入居者様のその時の気分で座っていただけるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時、ご家族が備品を持って来られる際に、ご本人が安心感を抱けるものもあわせて持ってきていただくようお願いしている。基本的には、どんなものも持ち込んでいただいてもよいとしている。	居室には使い慣れたテレビ・家具・鏡台等が置かれ、壁には作品や行事写真が飾られている。備えつけの台の上に所狭しと化粧品を並べ、自分のこれまでの生活を継続している様子が窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、できる限りご本人で移動していただけるよう手すりを多く設置している。また、ご自身の居室がわかるように、入居者様の目の高さに表札を設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101440		
法人名	東洋ウェルフェア株式会社		
事業所名	グループホーム燦 ふくおか(Bユニット)		
所在地	愛知県岡崎市福岡町字通長36-1		
自己評価作成日	平成27年 8月 8日	評価結果市町村受理日	平成27年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&JiyouCd=2372101440-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様をよく理解し、ご希望に添ったケアの提供を、様々な分野において、ご家族と共に考えながら取り組んでいきたいと思っております。入居者様の重度化は進んでおりますが、外出行事の機会は減らさずに、入居者様の状況に合った外出先を選ぶことによって、無理せず楽しく過ごしていただけるようにしていきたいと思っています。入居者様・ご家族様から、「このホームに入居してよかった」と心から思っていたりするような生活を送っていただきたいと思っております。また、今後は地域との関わりをこれまで以上に深めていきたいと考えています。運営推進会議を充実させ、地域の行事には洩れなく参加させていただき、地域の方々との信頼関係作りを力注いでいきたいと思っております。それにより、ホームとして地域の方々に認識を深めていただき、地域貢献ができればと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員が理念に基づき、支援を行っている。各フロア・事務所に理念を掲示し、常にスタッフが意識できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(清掃・防災訓練等)に毎回参加している。また、運動会、敬老会等には、入居者様も参加させていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域組長・総代・民生委員・福祉委員・敬老会の方々にご参加いただき、情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の現状、サービスの提供状況、取り組み等について毎回報告し、参加された方々のご意見を伺っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、岡崎市介護相談員、地域包括支援センターの方々にも出席いただき、現状報告、情報交換を積極的に行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、入居者様の権利を尊重した対応を行っている。各居室の扉には、センサーが設置されており、夜間はそれにより転倒予防の1つの対策としている。さらに、転倒のリスクが高い入居者様には、離床センサーを設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内合同で、「虐待、身体拘束、権利擁護」の研修を行い、出席できなかったスタッフ向けに、事業所内でその内容の研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様が3名おられ、制度の必要性を実感している。他の入居者様においても、必要があれば制度利用の支援をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、特に金銭に関わる項目・解約に関わる項目・サービス内容に関わる項目について、長く時間を取り、説明を行っている。また、分かりにくいと思われる部分については、ご入居後もその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご意見を伺っている。玄関に意見箱を設置している。1年に1度、ご家族アンケート(無記名)を行っている。県・市町村の相談窓口を玄関に掲示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、スタッフミーティング等の会議や個別面接にてスタッフの意見・提案を聞くようにしている。また、意見・提案がしやすい雰囲気をつくるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の能力・実績等の状況を把握し、事業所全体としてのバランスを考慮しながら、個々がモチベーションを高く持って働くことができるよう、職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所単位ではなく、社内全体で研修を行っている。その内容を各事業所の各スタッフ1人1人に行き渡るようシステムができている。また各管理者は、毎年2名ずつ、管理者研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム小部会、県のグループホーム協議会に入会し、情報交換・勉強会を行い、サービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の面接時に、可能な限り多くの情報をいただき、ご本人の不安・ご要望をできるだけ明確にイメージできるようにしている。常に、謙虚に笑顔で接し、安心してお話いただける雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、安心してお話いただける雰囲気作りに努め、ご家族の視点から見たご本人の現状をより深く理解できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居説明時に、訪問マッサージ、訪問歯科、訪問理容等ホームで利用できる外部サービスについて説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の業務においても、入居者様の立場に立って、考え行動し、受容と共感の姿勢を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様に変化があった場合は、ご家族に電話もしくは面会時の状況報告・相談をしている。それにより、ご家族とホームが同じ方向を向いてケアができるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームは常に開放し、ご家族の了承があれば、外出・外泊も自由に行えるようにしている。また、来設いただいた方々を、温かい雰囲気でお迎えすることで、また来たいと思っただけよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様1人1人の個性を把握し、食事時の座席の配置、リビングでの座席の配置等を考慮し決定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の方々についても、必要に応じて支援を行っている。例:入院されている方のお見舞い、写真提供、葬儀の参列、送迎車の提供など		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時の情報や日々接する中で、各担当者を中心として、ご本人の思いを把握し、1月に1回のカンファレンスで話し合いを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の面接とご入居時にご家族に情報シートを記入していただくことで情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェック、食事量・水分摂取量・排泄状況等を始めとして、入居者様の心身における現状把握は常に行っている。また、4ヶ月に1回「できることシート」に記入し、有する能力の確認を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に1度介護計画の見直しを行っている。ご本人、ご家族、管理者、計画作成担当者、担当スタッフ、主任、看護師の意見を踏まえて、ご本人・ご家族にとって、満足のできる介護計画になるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・介護日誌に日々記録をし、職員間で情報共有を行っている。その中で、特に必要な事柄については、個別のカードに記載し、必要時、すぐに確認ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の退院日時、ご家族同行の受診日時等は、ご家族の都合に合わせて決定している。また、誕生日の個別のプレゼントとして、ご本人・ご家族・担当者で夕食をする等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会・敬老会等に、参加させていただいている。また、行事で地域の喫茶店に行く等の支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科受診1回/2週、心療内科往診1回/2週、歯科は随時受診で対応している。必要時は、ご家族にも診察時同席いただき、Dr. に詳しい説明をしていただいております、高い評価を得ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、当ホームは1人ではあるが、必要事項は、口頭で出勤している介護スタッフに伝達し、なおかつ業務日誌・介護記録に記載し、全スタッフに情報が伝わるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合、2～3日に1度、面会に伺い、病院看護師より現状を聞いている。ご家族とも定期的に連絡を取り、Dr. からの情報を早めに得るようにしている。退院の目途が近づいたら、医療相談員と相談するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合のホームでの対応指針について書面を用いて説明している。また、希望があれば、特別養護老人ホームへの申し込みを支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフミーティングにて、研修を行っている。また、社内合同の研修会にて、新しい情報があれば、随時、スタッフミーティングにて情報を周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。地域福祉委員の方に、災害時の地域の方々に協力を得られるようお願いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「馴染みの関係」「家族的な雰囲気」の名の下に、人生の大先輩であり、お客様である入居者様の自尊心が、日々の生活の中で傷つけられることのないように、配慮しながら対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	折に触れて、ご本人の希望や困り事がないか個別に伺っている。また、日々の生活の中で、入居者様ご本人に選択していただく機会をできる限り多く提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望に合わせた生活をできる限り送っていただくようにしている。強制はしないことを原則としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から、衣類等の選択を楽しめるように支援している。化粧品を使われている方については、残りが少なくなってきたら早めにご家族にお知らせしている。また、月に1回の出張理容を利用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、スタッフと一緒に召し上がっていただいている。数名の入居者様に、食器を拭くお手伝いをいただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医と相談しながら、入居者様1人1人の1日あたりの食事摂取量・水分量、食事形態を決定している。摂取量を記録し、栄養状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入れ歯を使用している方は、外して磨いていただくよう支援している。自歯の方は、磨き残しのないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを理解し、できる限りトイレで排泄をしていただくよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に摂っていたり、よくしている。15:00のおやつでは、原則冷たい牛乳を召し上がっていただいている。食事では、繊維の多いものを摂っていただくようにしている。日々、ラジオ体操・腸の活性化を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	重度化に伴い、2～3日に一度の入浴となっている。入浴時間は限定されるが、その中で入居者様のご希望にできるだけ添えるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	原則、自由に居室で休んでいただくようにしている。また、夜間の睡眠時間を十分に確保できるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に、お薬手帳と薬情があり、常に確認ができる。処方時、薬局にて1包にまとめてもらい、氏名と飲む時間を薬包に印字してもらっている。服薬時はスタッフ2名で確認し、確実に服用いただけるようにしている。症状の変化を常に観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、できる限り、家事のお手伝いをしていただいている。また、ボランティアの方に来て頂き、楽しい時間を過ごしていただけるように支援している。外出支援の機会を少なくとも年5回設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春・秋の外出行事は、できる限り個別の希望に合わせて外出先を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族が希望された場合は、ご本人に現金を所持いただいている。外出時のちょっとしたお買い物に使っておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から、ご家族に電話をかけたいというご希望があった場合は、ホームの電話機で電話をかけていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節の花、雛人形、かぶと飾り、七夕飾り等季節を感じられるのものを飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置をランダムにしており、またフロアの端や廊下にもイスが置いてあり、入居者様のその時の気分で座っていただけるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時、ご家族が備品を持って来られる際に、ご本人が安心感を抱けるものもあわせて持ってきていただくようお願いしている。基本的には、どんなものも持ち込んでいただいてもよいとしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、できる限りご本人で移動していただけるよう手すりを多く設置している。また、ご自身の居室がわかるように、入居者様の目の高さに表札を設置している。		